

農林水産省
令和2年度中南米日系農業者等との連携交流・ビジネス創出委託事業

新型コロナウイルスのフードバリューチェーンへの
影響調査（ブラジル）

10月分報告書

令和2年10月

中央開発株式会社

概 要

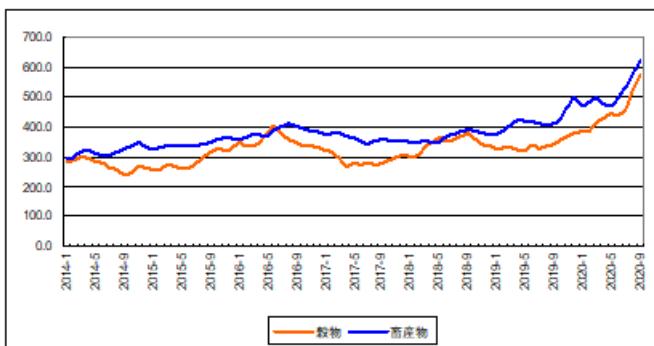
1. 主要農畜産物の生産予測と輸出入状況

○主要農畜産物の生産予測（国家食糧供給公社発表）

- 2020/21 年の穀物の作付面積は 1.3% 増加を予想。
- 大豆の作付面積は 2.5% 増加だが、各州で天候不順のため作付に遅れ。
- 米の作付面積は 1.6% の増加。天候不順で単位面積の収量は、2.7% の減産予想。
- トウモロコシは 2.6% の増産予想。
- 綿花は 6.2% の減産予想。
- 畜産物では豚と鶏のと畜は前年並みだが、牛は大幅減少。

○農畜産物価格

- 砂糖、トウモロコシ、大豆、牛、鶏、豚の価格はすべて上昇。
- 農産物価格指数は前年から上昇傾向であったが、今年になってから急上昇（下図）。



○主要農産物の輸出状況

- 大豆及び食肉（牛肉、豚肉）は、中国向けの輸出量が大幅に伸びたことなどで 9 月までの累計の輸出量は増加。
- 砂糖は大幅増加。
- マンゴー、ブドウの輸出が 6 月から増加。
- トウモロコシは累計で大幅減少。
- オレンジについても累計で減少。

○農産物・食品の輸入状況

- 食品全般の輸入量は、前年同時期比で 2.3% の減少。水産物は、やや回復したが、自粛の影響により、累計で 19% の減少。

2. マクロ経済

○農業 GDP

- 資材、生産、加工、販売までを含めた農畜産分野の GDP 成長率は、9 月までに累計で 6.8% の伸び。
- 2020 年の生産部門の成長率の予想は 1.9%。

- 農牧食糧供給省の 10 月発表の農畜産物生産額 (VBP) では、前年比 11.5%増加を予想。

○食品生産状況

- 8 月の食品の生産指数は、前年同月比で 5.68%上昇。

3. COVID-19 により顕在化したバリューチェーンの課題

- 政府は国内価格を抑えるために期限付きで大豆、トウモロコシの輸入関税を撤廃。
- 花卉店の営業再開、花卉組合等のキャンペーンにより売上げが回復。家庭での鉢物の消費量が増えたことで、8 月の売上は前年比 10%増加。イベントが再開されていないので切り花はまだ停滞。
- 食品価格が急騰。食品の 1 月から 9 月までの累計インフレは 7.3%で、全体の 1.34%に比べて大幅に上昇。コメ 40.69%、フェイジョン 34.47%、大豆油 51.3%。
- 生産者によるオンライン販売がさかんに。ミナスジェライス州農務局がオンライン販売を支援し状況を報告。

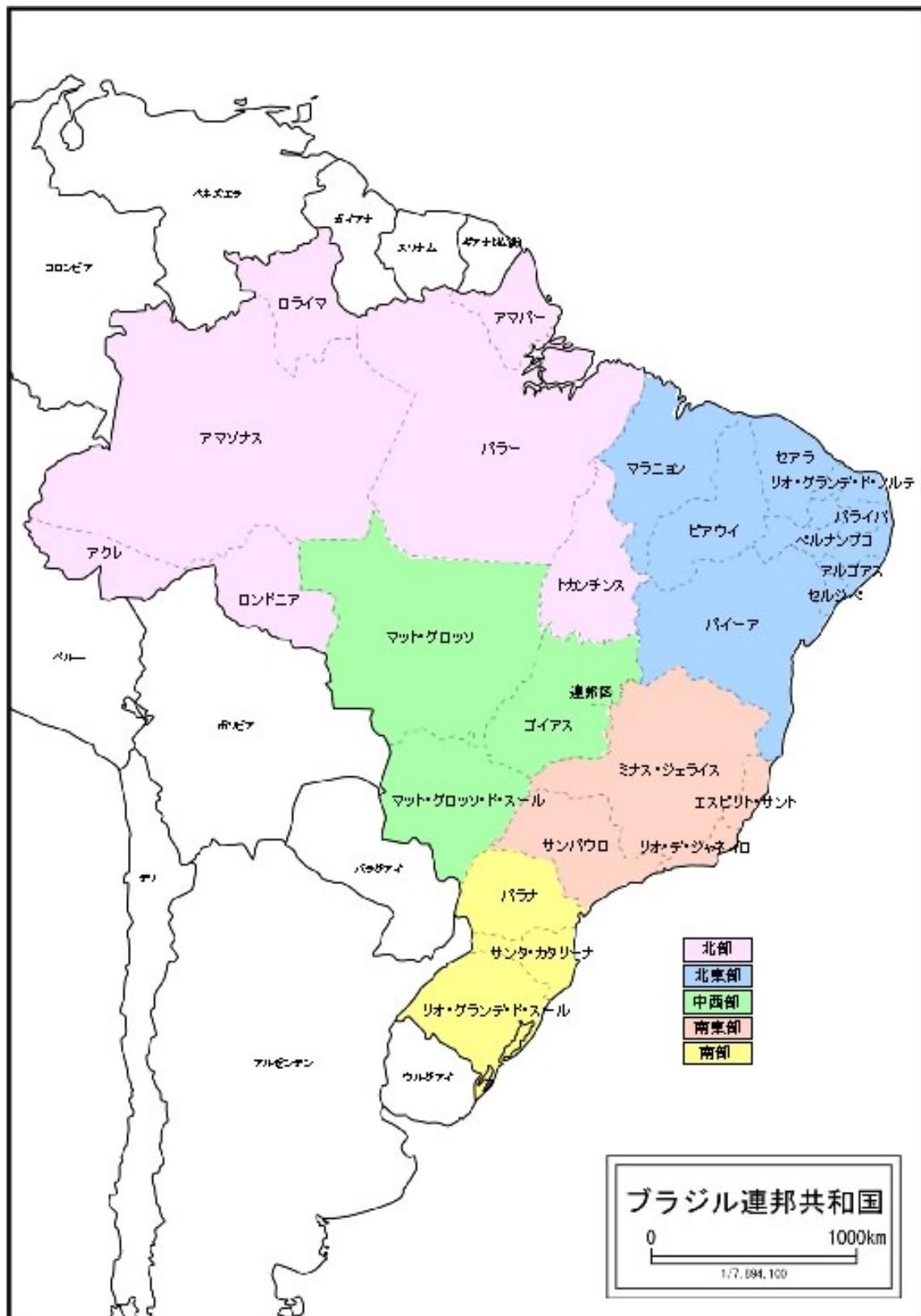
4. 政策、政府、民間企業の動き

- 農畜産関連の展示会、イベントがキャンセル。代替としてオンライン開催を実施。
- 10 月 14 日、パラグアイからの陸路での入国を許可。大豆を軸に経済活動の再開が期待。

目 次

1 主要農畜産物の生産予測と輸出入状況.....	1
1.1 主要農畜産物の生産予測.....	1
1.1.1 穀物（2020/21年（作物暦）の生産予測と対前年比）.....	1
1.1.2 その他の作物（2020年の生産予測と対前年比）.....	3
1.1.3 畜産（牛、豚、鶏の2019/2020年のと畜数と対前年比）.....	4
1.2 農畜産物価格.....	5
1.3 主要農産物の輸出状況.....	8
1.4 農産物・食品の輸入状況.....	11
2 マクロ経済	13
2.1 農業GDP	13
2.1.1 Cepea発表のGDP.....	13
2.1.2 農畜産分野のGDP予測.....	14
2.1.3 農畜産物生産額（VBP - Valor Bruto de Produção）.....	15
2.2 食品生産状況.....	15
3 COVID-19により顕在化したバリューチェーンの課題	16
3.1 期限付きで大豆とトウモロコシの輸入関税撤廃.....	16
3.2 肥料、農薬輸入.....	17
3.3 花卉・観葉植物市場が回復.....	18
3.4 食品価格の値上がり	19
3.5 生産者によるオンライン販売.....	20
4 政策、政府、民間企業の動き	23
4.1 農畜産関係イベント	23
4.2 パラグアイからの陸路入国の許可.....	23

「本事業は、農林水産省大臣官房国際部の委託により、中央開発が実施したものであり、本報告書の内容は農林水産省の見解等を示すものではありません。」



1 主要農畜産物の生産予測と輸出入状況

1.1 主要農畜産物の生産予測

主要農畜産物の生産予測を、穀物及びサトウキビ関係（サトウキビ、砂糖、エタノール）についてはブラジル国家食糧供給公社（CONAB - Companhia Nacional de Abastecimento）の生産レポートである「Acompanhamento da Safra Brasileira – Grãos」、「Acompanhamento da Safra Brasileira - Cana-deaçúcar」、その他の作物及び畜産物についてはブラジル地理統計院（IBGE - Instituto Brasileiro de Geografia e Estatística）の農業生産調査である「Levantamento Sistemático da Produção Agrícola」のデータを基に示す。

1.1.1 穀物（2020/21 年（作物暦）の生産予測と対前年比）

CONAB の生産予測の発表は、10 月から 2020/21 年度のものとなった¹。2020/21 年度の穀物の作付面積は、すべての作物を合わせて 2,030 万ヘクタールとなり、前年比で 1.3% 増加すると予想されている。

＜大豆＞

大豆の作付面積は、3,788 万ヘクタール、前年度比 2.5% の増加、生産量は、1 億 3400 万トン、7.1% の増加と予想されている。生産者は、2020 年の高値で資本力を増しており、それが反映されていることも一因であると推測されている。10 月は播種時期にあたるが、降雨不足による播種遅れの影響は、この予想にはまだ反映されていない。

大豆専門ポータルサイトの Soja Brazil によると、10 月 16 日時点の各州の大豆の播種進捗状況は図表-1 のようになる²。全体的に遅れが出ているが、特に主要生産州であるマットグロッソ州は、例年³、この時期、作付予定面積の 23.8% に達しているが、今年は 8.0% と、大幅に遅れている。大豆の播種が遅れると収穫時期がずれこみ、裏作のトウモロコシの作付時期に影響を与える。

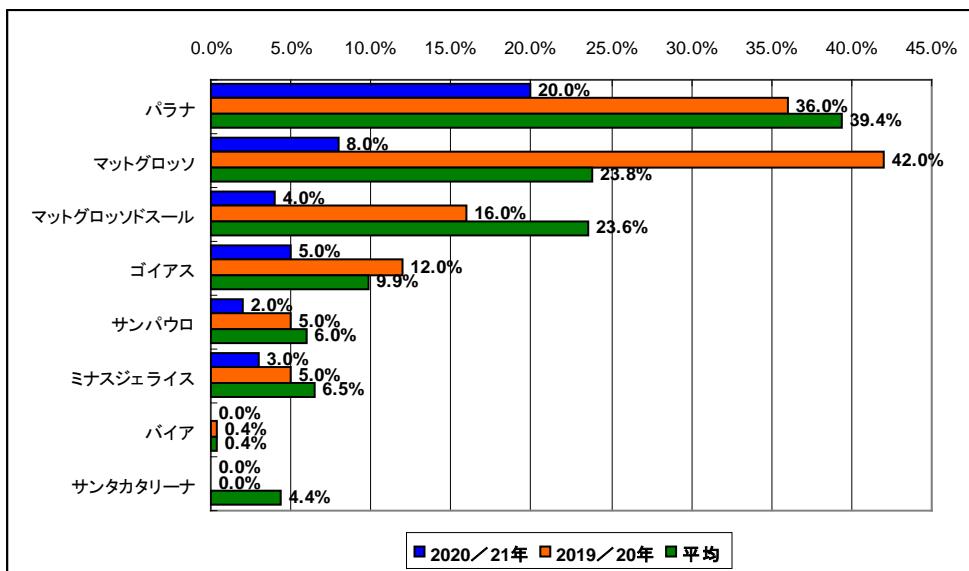
¹ 以上、CONAB, *Acomp. safra brasileira de grãos, v. 8 – Safra 2020/21, n. 1 - Primeiro levantamento, Brasília, outubro 2020*

² Soja Brazil, *Plantio da soja chega a 6,1% no país. Confira a situação de cada estado!*, 2020/10/20

<https://www.canalrural.com.br/projeto-soja-brasil/plantio-da-soja-chega-a-61-no-pais-confira-a-situacao-de-cada-estado/>

³ 上の記事では「通常の平均」と記述されて、時期、期間などは不明。

図表-1 州別の大豆の播種の進捗状況



出典 : Soja Brasil

<米>

高値が続いているが、作付面積は 1.6%の増加しか見込まれていない。主要生産州のリオグランデドスール州は、降雨不足で 10 月半ばの時点で、作付面積は予定の 45%にとどまっている。単位面積当たり収量は、4.2%低下することが予想されており、そのため生産量は 2.7%減産の約 1,089 万トンになると予測されている。

<フェイジョン豆>

作付面積は、約 294 万ヘクタール、生産量は、約 313 万トンで、3.2%の減産が予測されている。フェイジョン豆は、第 1 期作（8 月～12 月作付）、第 2 期作（1 月～4 月作付）、第 3 期作（5 月～7 月作付）に分けられ、作付面積はそれぞれの時期の気象条件、相場によって増減する。

<トウモロコシ>

作付面積は、約 1,848 万ヘクタール、前年度比で 0.2%減少しているが、単位面積当たり収量は、5,690 キロ／ha、2.8%向上することが予測されている。生産量は、約 1 億 517 万トン、2.6%の増産が予測されている。

<小麦>

作付面積は、約 233 万ヘクタール、生産量は、約 683 万トンが予測されている。

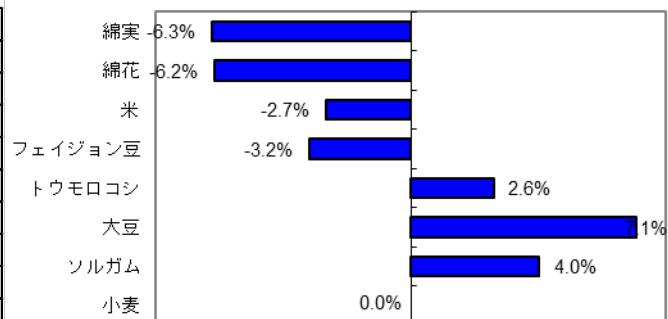
<綿花>

作付面積は、約 167 万ヘクタール、前年比 3%の減少、生産量は、約 280 万トンで 6.2%の減産が予測されている。ブラジル纖維協会 (Abit - Associação Brasileira de Indústria Têxtil) によると、2020 年の綿花の需要量は 57 万トンで前年の 70 万トンより 18%少なくなっている。来年、COVID-19 の影響が緩和されれば、2019 年の水準に戻ると予測し

ている。

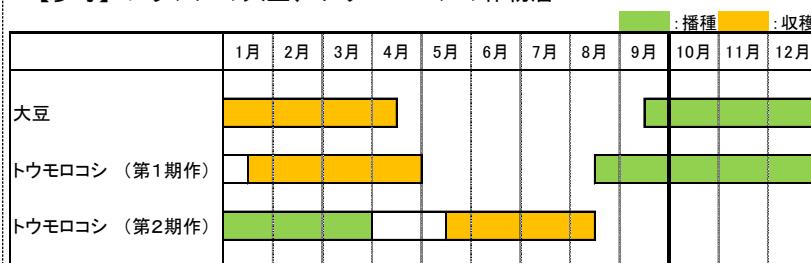
図表-2 2020/21 年度の穀物生産予測と対前年比（千トン）

	2019/20年	2020/21年	
		10月時点予想	
綿実	4,371	4,098	
綿花	3,002	2,817	
米	11,183	10,886	
フェイジョン豆	3,230	3,127	
トウモロコシ	102,515	105,167	
大豆	124,845	133,673	
ソルガム	2,498	2,599	
小麦	6,834	6,834	



出典：CONAB

*【参考】ブラジルの大豆、トウモロコシの作物暦



CONAB は、穀物等の統計年度を、作付から収穫の作物暦により、”2019/20 年度”として発表する。

参考にブラジルの大豆、トウモロコシの作物暦を左表に示す（統計年度は 10 月～翌年 9 月）。

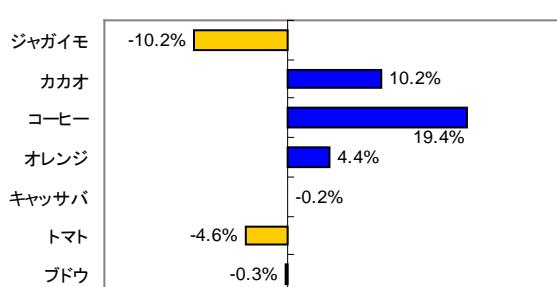
出典：農畜産業振興機構

1.1.2 その他の作物（2020 年の生産予測と対前年比）

その他の作物の 2020 年生産の 9 月時点での予測数値は、ジャガイモ、トマトは減産、カカオ、コーヒー、オレンジは増産の予測である。特に、コーヒーは約 20% の増産との予測である（図表-3）。

図表-3 2020 年のその他の作物の生産予測と対前年比（千トン）

	2019年	2020年	
		9月時点予想	
ジャガイモ	3,854	3,400	
カカオ	253	278	
コーヒー	2,996	3,638	
オレンジ	17,614	17,008	
キヤッサバ	18,990	19,087	
トマト	4,076	3,998	
ブドウ	1,446	1,442	



出典：IBGE、*Levantamento Sistemático da Produção Agrícola*, Set/2020

1.1.3 畜産（牛、豚、鶏の2019/2020年のと畜数と対前年比）

図表-4 は農牧食糧供給省（MAPA - Ministério da Agricultura, Pecuária e Abastecimento）が発表する毎月の豚、牛、鶏のと畜数のデータ（検査数）である。ブラジルの食肉検査は、販売が許可される範囲によって、連邦レベル（SIF : Serviço de Inspeção Federal、連邦検査部）（輸出が可能）、市レベル（SIM - Serviço de Inspeção Municipal）、州レベル（SIE - Serviço de Inspeção Estadual）の3種類がある。図表-4 は連邦レベルである SIF のデータを示した。

1月から7月までの累計と畜数の対前年比を見ると、豚及び鶏ではほぼ横ばいだが、牛は13%減となっている。牛のと畜数が減少した理由は、昨年はメスのと畜数が多かったことにより子牛の出生頭数量が減少したことが原因とされている⁴。

図表-4 と畜数



出典：MAPA, Relatório de Atividades do Serviço de Inspeção Federal

⁴ Notícias Agrícolas, Com oferta restrita de animais, abate de bovinos recuou 9,2% no primeiro trimestre de 2020, 2020/05/14

<https://www.noticiasagricolas.com.br/videos/boi/259225-com-oferta-restrita-de-animal-abate-de-bovinos-recuou-92-no-primeiro-trimestre-de-2020.html#.X0bf19RCfmg>

1.2 農畜産物価格

図表-5 に、砂糖、主要穀物（トウモロコシ、大豆）及び畜産物（成牛、成豚、鶏肉）の価格の推移を示す。以下、主に Cepea の月報である『Cepea Agromensal』を参考に記載する。

砂糖の価格は、9月平均は 50 kgあたり 86.53 レアルであったが、同月最高値は 88 レアルに達している。また、前年同月比で 41.8% の上昇。

トウモロコシは、ドル高で競争力がつき国際市場で需要が増え、生産者は国内市場への供給を制限したことにより価格は上昇した。月の平均は 1 俵（60 キロ）あたり 60.06 レアルで、前年同月比で 59.6% の上昇。

大豆は、米国の減産見込みから国際相場が上昇、それに伴って国内価格も上がり、インフレ調整なしの名目の価格で最高値を更新した。月平均は、1 俵（60 キロ）あたり 141.20 レアルで、前年同月比で 63.2% の上昇。

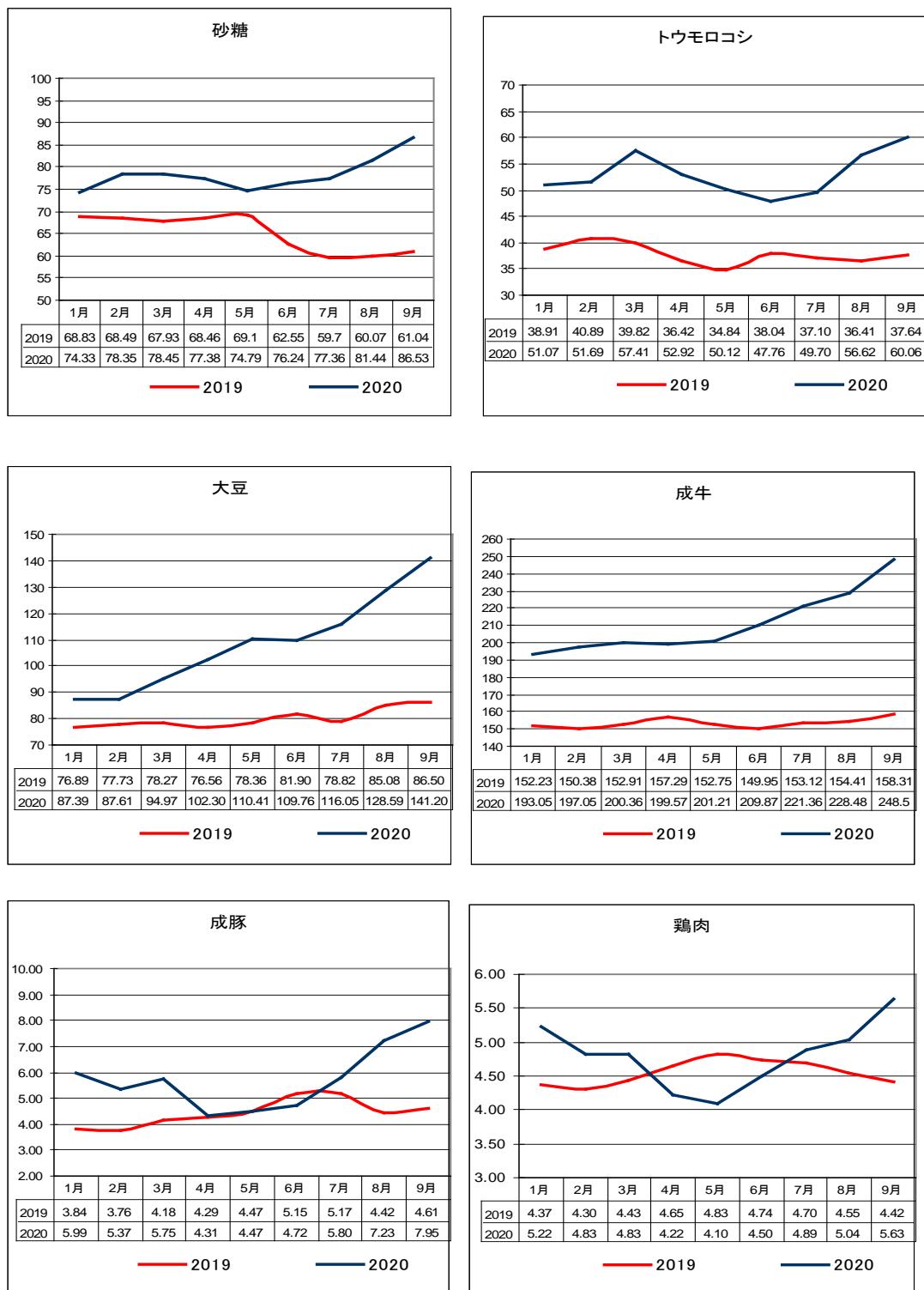
成牛も、供給不足、輸出を含めて需要が強く、Cepea 統計の最高値を更新している。平均で 1 アローバ（15 キロ）あたり 248.5 レアルで、前年同月比で 57% の上昇。フィードロット（多頭数集団肥育場）の供給量も減少しているので、高値はさらに続くことが予想されている。

成豚は、価格も 4 月から上昇を続けており、9 月の平均は 7.95 レアル／キロ、前年同月比で 70% 以上の上昇。一方、と畜体重に達する豚が不足しているという指摘もある⁵。

サンパウロの冷凍鶏肉の出荷価格は、5.63 レアル／キロ、前年同月比で 27.4% の上昇。輸出、国内市場ともに好調で、5 月から 5 ヶ月連続で値上がりしている。

⁵ Notícias Agrícolas, Suínos: em setembro, preços do vivo e da carne atingem recordes reais, 2020/10/01

図表-5 農産物価格の推移（1月～8月）（各単位：備考参照）



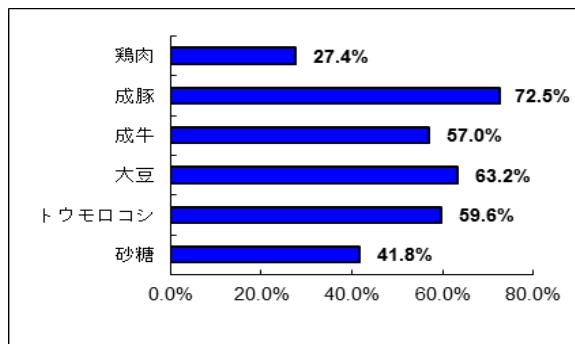
出典：Cepea

単位：レアル

備考：砂糖：1俵あたり（50キロ）、サンパウロ市場（Cepeaインデックス）／トウモロコシ：1俵（60キロ）あたり、B3市場（サンパウロ商品取引市場）／大豆：1俵（60キロ）あたり、パラナグア港渡し、B3市場（サンパウロ商品取引市場）／成牛：アローバ（15キロ）、B3市場（サンパウロ商品取引市場）／成豚：キロ当たり、Cepeaインデックス（サンパウロ）／冷凍鶏肉：サンパウロ市場（Cepeaインデックス）

図表-6は、9月の砂糖、トウモロコシ、大豆、成牛、成豚、鶏肉の価格の前年同月比を見たものである。すべて昨年に比べて価格は上昇している。

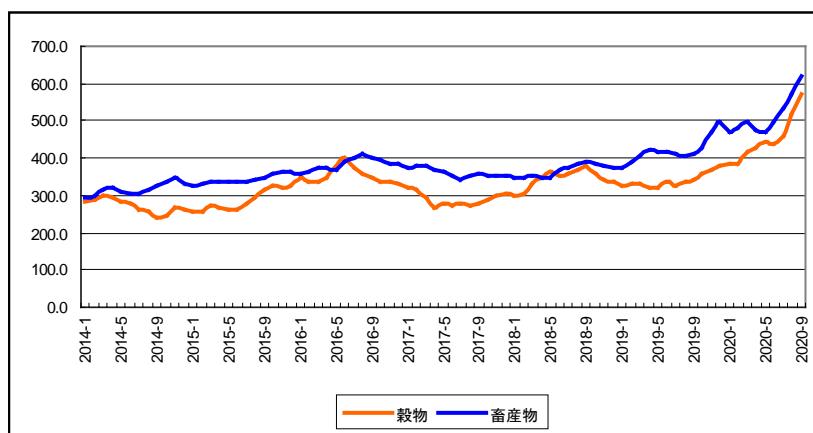
図表-6 砂糖、トウモロコシ、大豆、成牛、成豚、鶏肉の価格の前年同月比（9月）



出典：Cepea

図表-7は、過去5年の穀物と畜産物の価格の推移を、Cepeaが発表している農畜産物生産者価格指数（IPPA - Índices de Preços ao Produtor de Grupos de Produtos Agropecuários）⁶で見たものである。穀物、畜産物とともに、昨年から上昇傾向にあったが、今年に入ってから輸出の増加などの理由で急上昇している。

図表-7 穀物と畜産物の価格指数の推移

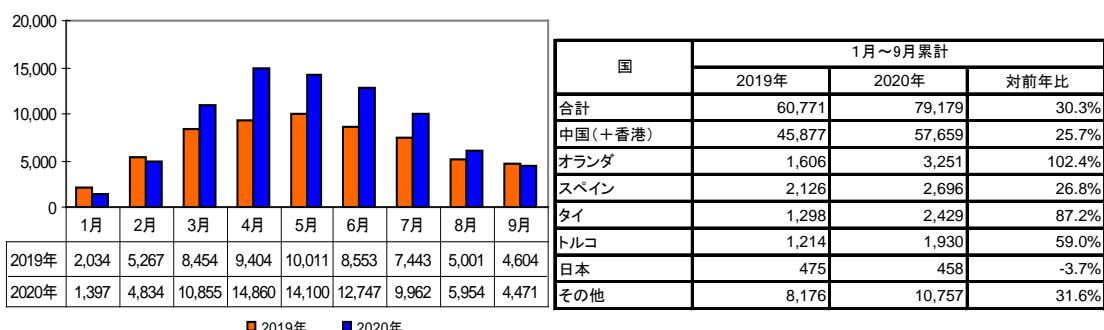


⁶ 2000年を100として各分野の農作物、畜産物価格を総合して指数化したもの。

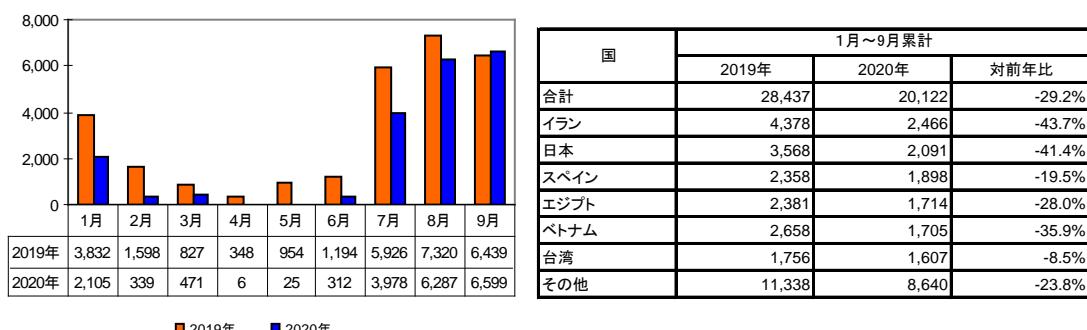
1.3 主要農産物の輸出状況

図表 8 から 20 に、主要農産物の 2020 年 1 月から 9 月までの累計輸出数量及び対前年比を示す。大豆及び牛肉、豚肉は、中国向けの輸出量が大幅に伸びたことに起因して、累計の輸出量が増加している（大豆 30%、牛肉 14%、豚肉 43%）。鶏肉は、ほぼ前年並み。トウモロコシは、7 月から増えているものの、累計では-30%の大幅な減少となっている。オレンジジュースは、7 月から輸出が伸びたが、累計では-8.4%となっている。砂糖は、増産と国外市場での需要増により大幅に増加しており、累計で約 70%増えている。綿花は、輸出先国の経済再開により、7 月から輸出量が前年を上回るようになってきているが、9 月は前年並みであった。マンゴーは、COVID-19 の影響により航空便の運行停止などが理由で輸出量が減少していたが、6 月から収穫期に入り、9 月の輸出量は前年を上回って増加している。

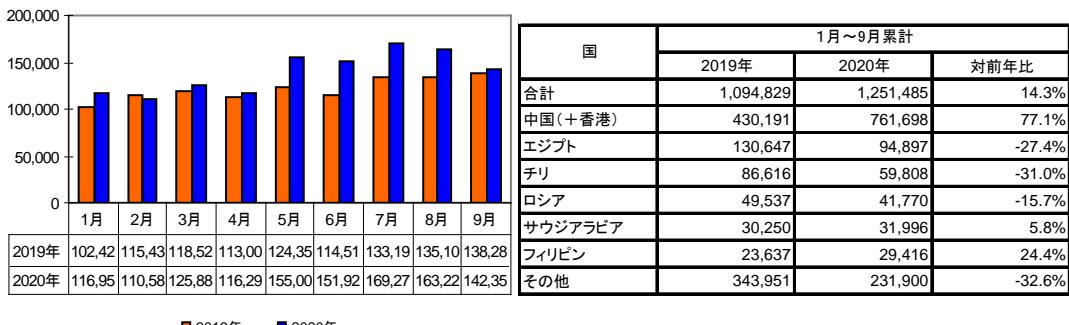
図表- 8 大豆（千トン）



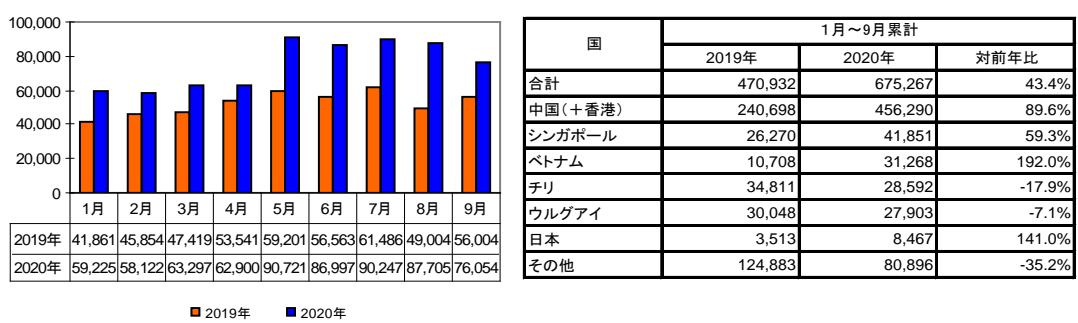
図表- 9 トウモロコシ（千トン）



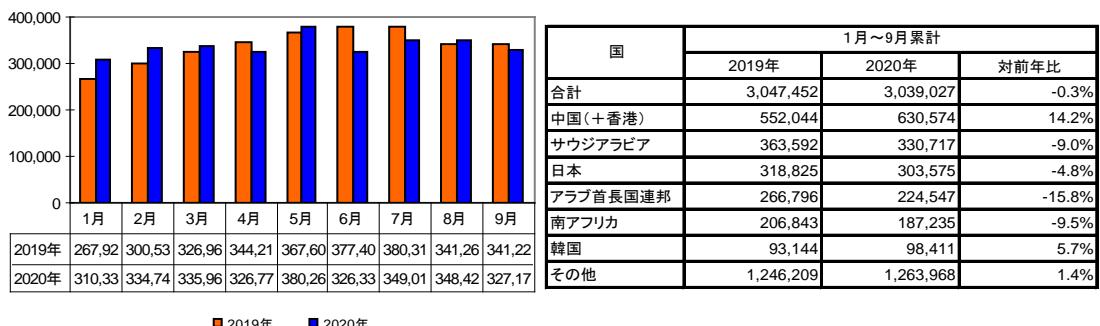
図表- 10 牛肉 (トン)



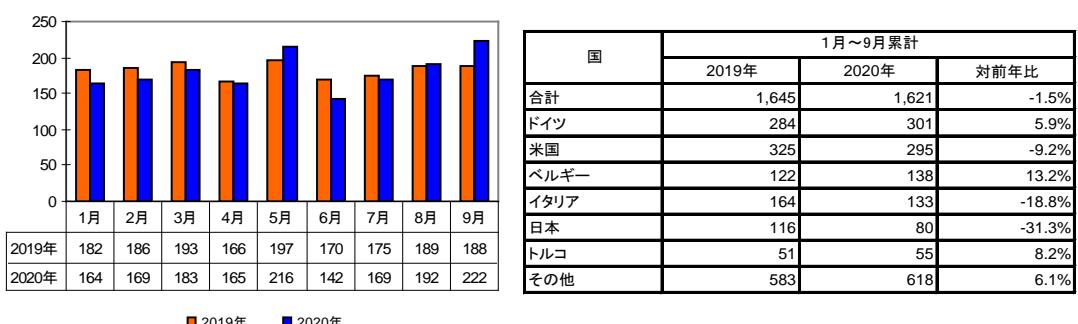
図表- 11 豚肉 (トン)



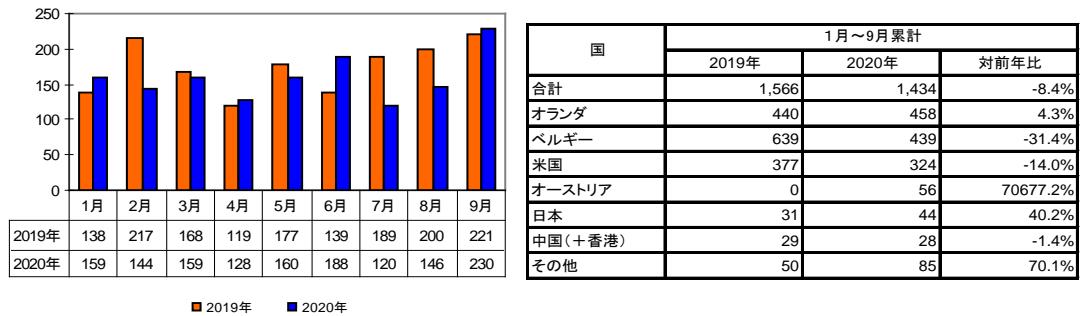
図表- 12 鶏肉 (トン)



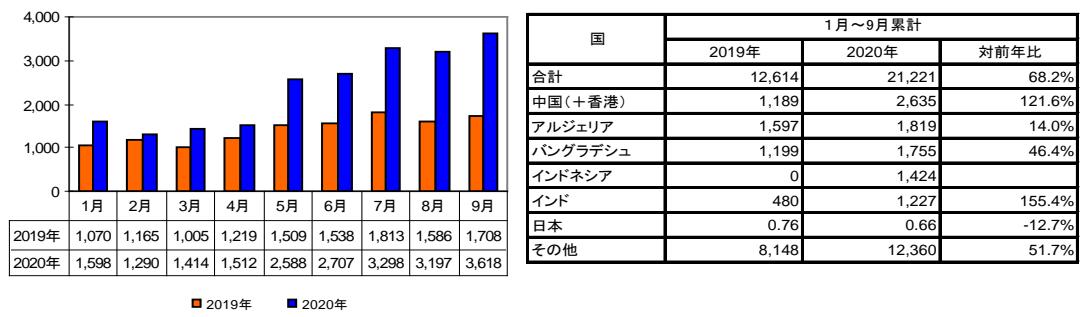
図表- 13 コーヒー (千トン)



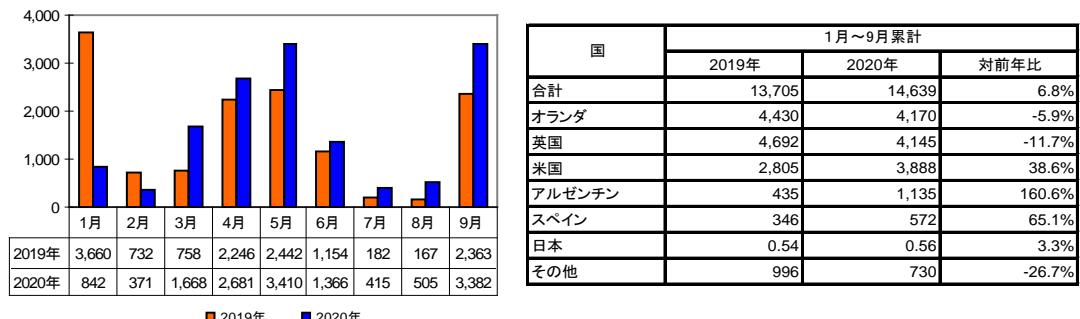
図表- 14 オレンジジュース (千トン)



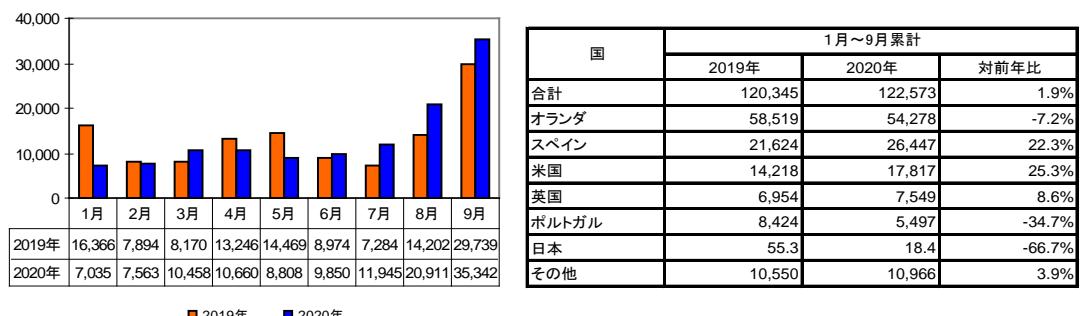
図表- 15 砂糖 (千トン)



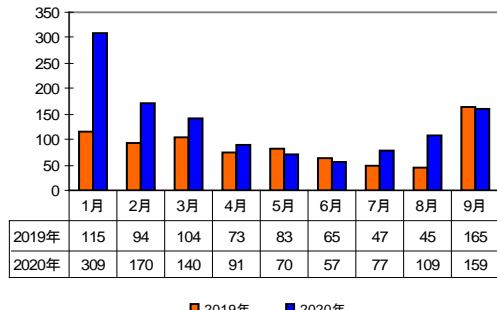
図表- 16 ブドウ (トン)



図表- 17 マンゴー (トン)



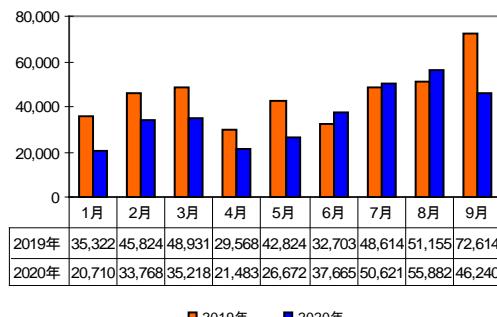
図表- 18 編花 (トン)



国	1月～9月累計		
	2019年	2020年	対前年比
合計	791	1,181	49.3%
中国(+香港)	190	276	44.9%
ベトナム	110	202	84.0%
トルコ	93	168	80.6%
パキスタン	15	147	893.7%
インドネシア	132	140	6.4%
日本	4.26	2.43	-43.1%
その他	247	245	-0.7%

■ 2019年 ■ 2020年

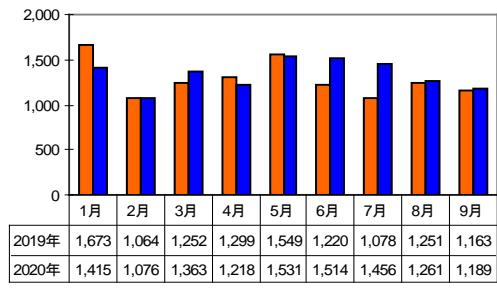
図表- 19 タバコ葉 (トン)



国	1月～9月累計		
	2019年	2020年	対前年比
合計	407,555	328,260	-19.5%
ベルギー	96,769	90,439	-6.5%
米国	40,241	28,047	-30.3%
インドネシア	14,030	15,676	11.7%
トルコ	10,718	15,559	45.2%
ロシア	20,789	15,231	-26.7%
ポーランド	15,643	15,041	-3.8%
その他	209,364	148,267	-29.2%

■ 2019年 ■ 2020年

図表- 20 パルプ (千トン)



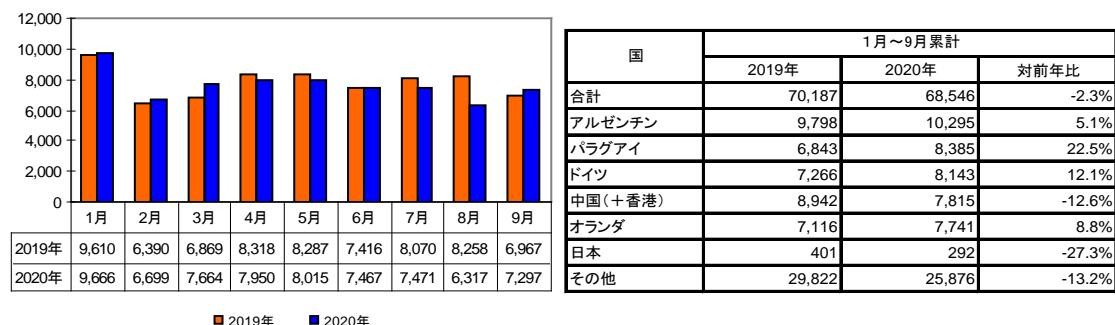
国	1月～9月累計		
	2019年	2020年	対前年比
合計	11,549	12,023	4.1%
中国(+香港)	5,017	5,686	13.3%
米国	1,789	1,903	6.4%
イタリア	988	1,033	4.5%
オランダ	1,040	690	-33.7%
韓国	215	286	32.8%
日本	269	282	4.6%
その他	2,229	2,143	-3.8%

■ 2019年 ■ 2020年

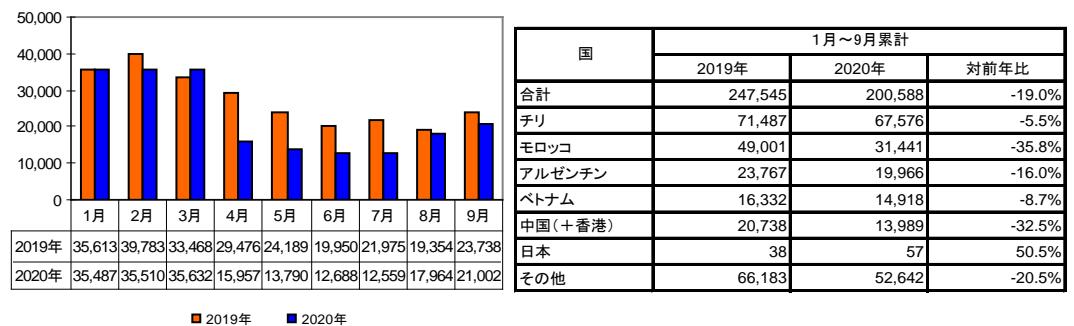
1.4 農産物・食品の輸入状況

図表 21 から 24 に、主要農産物・食品の 2020 年 1 月から 9 月までの累計輸入数量及び対前年同期間比を示す。食品全般（生鮮食品を除いた加工食品全体）の輸入量は、9 月までの累計で、前年度同月比で 2.3% の減少となっている。水産物は、レストランの再開によりやや回復したが、9 月までの累計で 19% のマイナスとなっている。飲料は前年並み。小麦は、小幅ながら増加している。これは、輸入量が 4 月より増えていることから、COVID-19 感染拡大により家庭内需要が増えたことも一因と推測される。

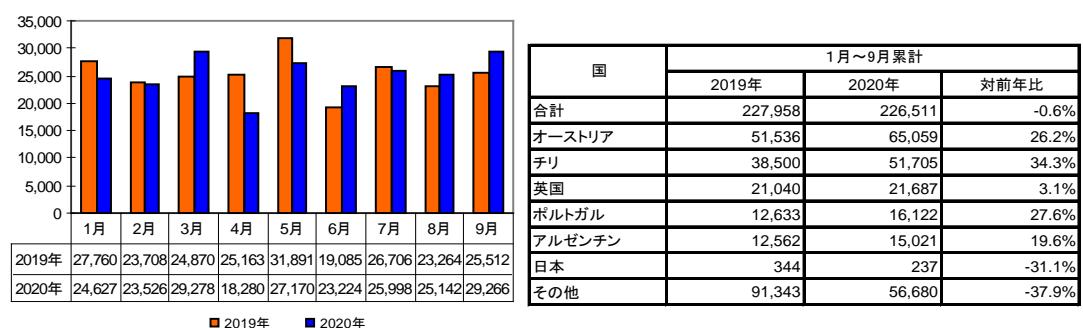
図表- 21 食品全般 (トン)



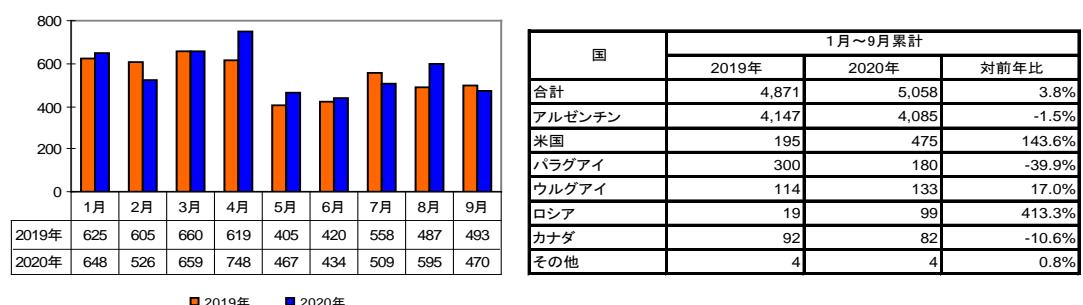
図表- 22 水産物 (トン)



図表- 23 飲料 (トン)



図表- 24 小麦 (千トン)



2 マクロ経済

2.1 農業 GDP

農業 GDP については、2つのデータがある。一つは、サンパウロ州立大学農学部に付属する応用経済学研究センター（Cepea - Centro de Estudos Avançados em Economia Aplicada）が全国農畜産連盟（CNA - Confederação da Agricultura e Pecuária do Brasil）とのタイアップで集計しているものである。もう一つは、国の公式統計である IBGE のものである（四半期ごとに発表）。Cepea の GDP データは農畜産関連資材、農畜産生産、農産物加工、流通、サービス部門の4分野を含めたもので、IBGE のデータは農畜産生産のみの算出となっている。

また、成長予測については、経済省付属の研究機関である応用経済研究所（Ipea - Instituto de Pesquisa Econômica Aplicada）が、四半期ごとに発表している。

2.1.1 Cepea 発表の GDP

図表-25 に、Cepea が発表した1月から7月までの農業関連産業（農業分野、畜産分野）の GDP 成長率を4つの部門（資材、生産、加工、サービス・流通）に分けて示した。農業分野、畜産分野共に生産部門は大きく成長しているが、これは両者ともに生産者価格が高い水準で動いたことによる。加工部門では、農業分野で-3.92%となっているが、これは、COVID-19 による自粛・経済活動制限による影響と推測される。一方、畜産分野での加工部門では、12.00%の成長となっており、食肉輸出の好調が要因の一つと推測されている。

いずれの分野においても、サービス・流通部門がプラスの成長となっているのは、当初、COVID-19 の影響により輸送部門で多少の混乱はあったが、その後すぐに改善され、食品流通は滞りなく続けられた結果と推測されている。

図表- 25 農畜産関連産業の GDP 成長率（Cepea、1月～7月）

	資材	生産	加工	サービス・流通	合計
農畜産全体	2,40%	18,46%	-0,37%	6,00%	6,75%
農業	2,13%	24,47%	-3,92%	1,69%	4,30%
畜産	2,97%	8,86%	12,00%	15,13%	12,25%

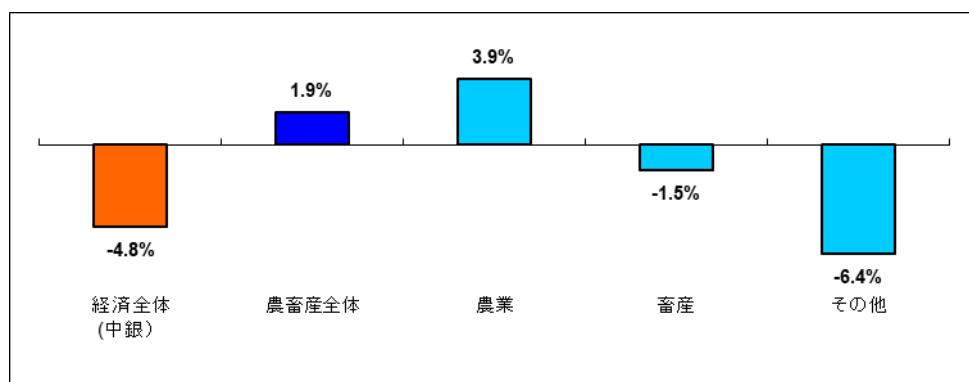
出典 : Cepea, PIB do Agronegócio, 2020/10

2.1.2 農畜産分野の GDP 予測

図表-26 は、Ipea が 10 月に発表した 2020 年の農畜産分野の GDP 成長率の予測及び中央銀行が金融市場のアナリストの予測を集計して発表する経済全体の GDP 成長率の予測 (Focus) である。Focus によると経済全体の後退はこれまでの 5%台から 4.8%に改善されている。農畜産全体も前回の予測の 1.5%から 1.9%に改善している⁷。

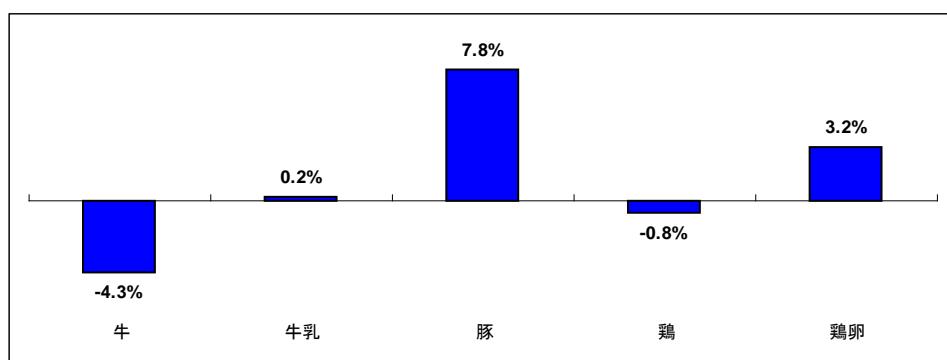
分野別では、農業分野が 3.9%成長する一方、畜産分野の後退 (-1.5%) が見られるが、畜産の中でも特に牛が 4.3%後退することが予測され (1.1.3 畜産 (牛、豚、鶏の 2019/2020 年のと畜数と対前年対比) 参照)、全体を押し下げる要因となっている(図表-27)。鶏がマイナスとなっているのは、輸入元が買い控えを行ったことが影響していることが一因と推測される。

図表- 26 2020 年の農業分野の GDP 成長率予測 (Ipea)



出典 : Ipea, *Carta de Conjuntura, n° 49 – 4º Trimestre / Banco Central do Brasil, Focus – Rlatório de Mercado*, 2020/10/26

図表- 27 2020 年の畜産分野の GDP 成長率予測 (Ipea)



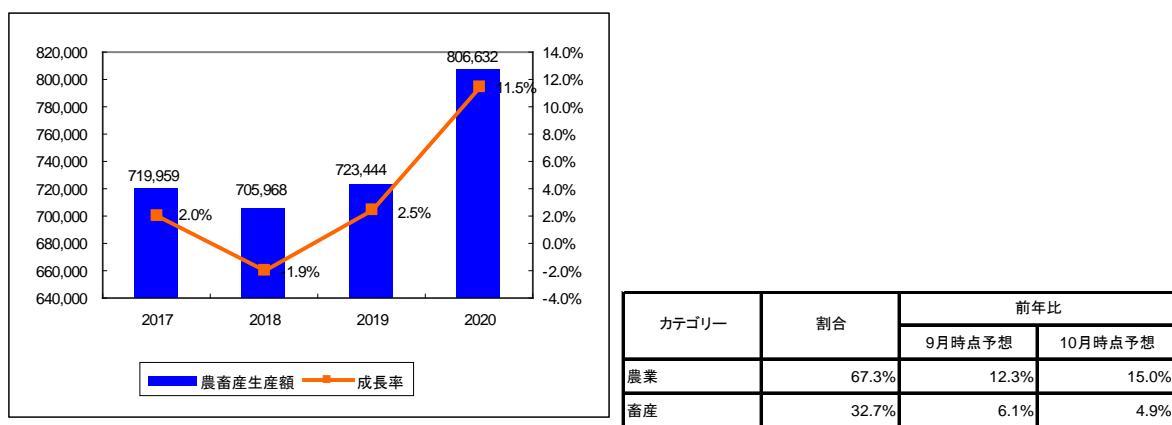
出典 : Ipea, *Carta de Conjuntura, n° 49 – 4º Trimestre*

⁷ Ipea のシミュレーションは IBGE と CONAB の生産量予測を元に作成されている。

2.1.3 農畜産物生産額 (VBP - Valor Bruto de Produção)

VBP (Valor Bruto de Produção) は、主要作物の生産量と生産者価格をベースに算出されるもので、農牧食糧供給省が毎月、年間予測を発表している。10月発表のデータでは、2020年は、前年比で11.5%の増加が見込まれている(9月発表では10.1%)。豊作のコーヒー、高相場が続く大豆の成長率が全体を牽引している。VBPは、2019年から2年連続の増額となっている(図表-28)。

図表-28 VBPの推移と成長率(百万レアル)



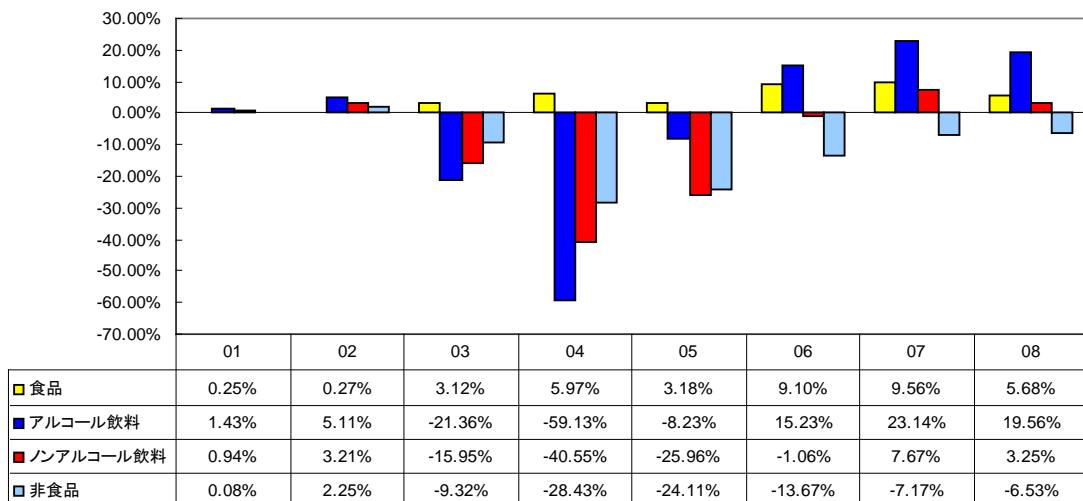
出典: MAPA, *Valor Bruto da Produção - Lavouras e Pecuária - Brasil*, 2020/10

備考: インフレ調整済み (IGP-DI)

2.2 食品生産状況

ジェツリオ・ヴァルガス財団 (FGV - Fundação Getulio Vargas) が毎月発表している農産物加工指数 (PIMAgro - Índice de Produção Agroindustrial) から、メーカーの生産活動を推察する。この指数は、2002年1月を基準として生産活動を指標化しているもので、図表-29の数値は前年同月比を示す。

図表- 29 農産物加工指数（前年同月比）



出典：FGV, Índice de Produção Agroindustrial (PIMAgro) – Produção Física, 2020/08

農産物加工メーカー（食品・非食品⁸）の活動は、6月から回復傾向が見られ、8月は、食品が前年同月比で5.68%、アルコール飲料が19.56%、ノンアルコール飲料が3.25%のプラスとなっている。非食品は、まだ前年同月比マイナス(-6.53%)だが、回復傾向にある。7月に比べ8月の前年同月比が食品、アルコール飲料、ノンアルコール飲料とともに下がっているのは、在庫の補充が進んだことに起因するとみられる。グラフには出でていないが、食品のプラスは植物由来のものの増加(14.4%)に牽引されており、牛のと畜数の減少が影響して、動物由来の食品は-2.4%という結果になっている⁹。

8月の食品と非食品を合わせた農産物加工の総合指数はプラス0.3%で、FGVによると、同時期の他の工業分野は、工業全般(-2.7%)、採掘産業(2.0%)、製造業(-2.7%)となつておらず、農産物加工はCOVID-19の影響が少ない分野となっている。

3 COVID-19により顕在化したバリューチェーンの課題

3.1 期限付きで大豆とトウモロコシの輸入関税撤廃

10月、ブラジル政府は、国際相場の影響を受けて高値が続く大豆とトウモロコシの国内価格を抑えるため、輸入関税を一時的に撤廃した。国内価格が高騰して、コスト高に直面している養鶏、養豚業界(ABPA¹⁰)、及び搾油業界(Abiove¹¹)などの団体からの要望に応

⁸非食品：農業資材、繊維製品、森林製品（パルプ）、バイオエネルギー、天然ゴム、タバコ葉

⁹ FGVAGRO - Centro Estudo do Agronegócio, Índice de Produção Agroindustrial (PIMAgro), 2020/08

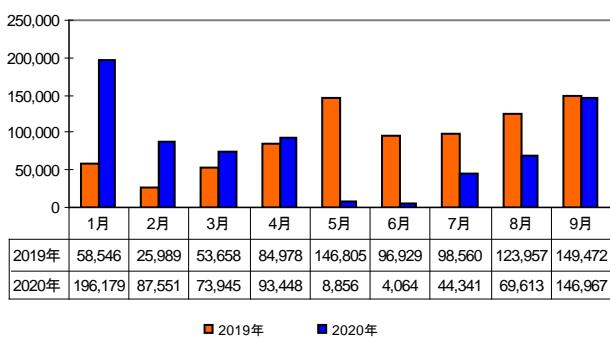
chrome-extension://oemmmndcbldboiebfnladdacbdflmadadm/https://gvagro.fgv.br/sites/gvagro.fgv.br/files/u116/Comentarios_FGVAgro_2020.08_0.pdf

¹⁰ ブラジル動物タンパク質協会(ABPA - Associação Brasileira de Proteína Animal)

えたものである。免税の期間は、大豆が来年1月15日まで、トウモロコシは3月までとなっている。これまで、メルコスール以外の国からの輸入に対して、大豆(粒)、トウモロコシとともに、8%の関税がかけられている。

貿易統計を見ると、トウモロコシの輸入量は、1月～9月までの累計で、前年比マイナス13.6%の減少となっているが、大豆は3倍以上の増加となっている(図表-30、31)。大豆の輸入元は、関税免除のメルコスール加盟国(パラグアイ、ウルグアイ、アルゼンチン)が主要国となっている。ブラジルは、大豆とトウモロコシの生産・輸出国でありながら、飼料用や搾油原料として国内の需要を満たすために輸入を必要としている。

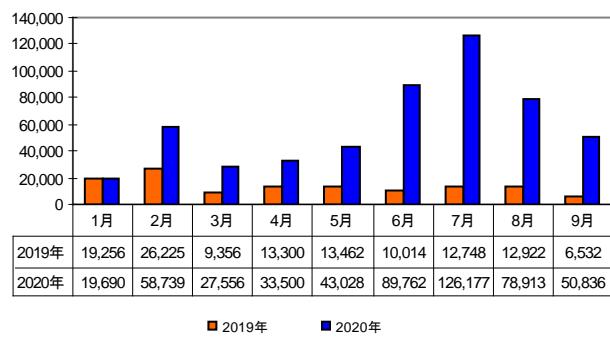
図表-30 2020年のトウモロコシの輸入量(トン)



国	1月～9月累計		
	2019年	2020年	対前年比
合計	838,893	724,964	-13.6%
パラグアイ	743,051	622,164	-16.3%
アルゼンチン	95,819	102,791	7.3%
米国	23	8	-65.4%

出典：AGROSTAT - Estatísticas de Comércio Exterior do Agronegócio Brasileiro

図表-31 2020年の大豆の輸入量(トン)



国	1月～9月累計		
	2019年	2020年	対前年比
合計	123,816	528,201	326.6%
パラグアイ	88,259	521,604	491.0%
ウルグアイ	35,557	6,485	-81.8%
アルゼンチン	0	112	
中国	0.2	0	-100.0%

出典：AGROSTAT - Estatísticas de Comércio Exterior do Agronegócio Brasileiro

3.2 肥料、農薬輸入

図表-32は、2019年と2020年の1月から9月までの肥料、農薬の輸入額と輸入量を比較したものである。肥料の輸入量は、前年度同時期比で13.4%の増、農薬類は1.4%の減と

¹¹ ブラジル植物油工業協会 (Abiove - Associação Brasileira das Indústrias de Óleos Vegetais)

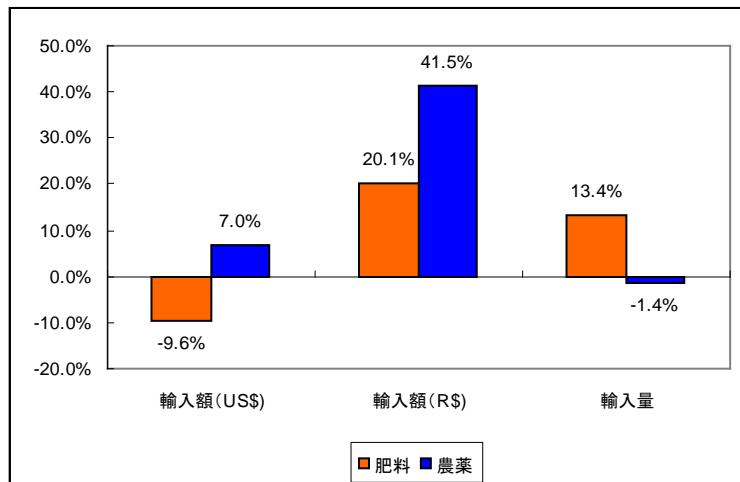
なっている。輸入額は、ドル建てで肥料が 9.6%の減少、農薬類が 7.0%の増加だが、ドル高を反映してリアル貨では、肥料、農薬それぞれ、20.1%、41.5%の増加となっている。

主要農産物生産州であるマットグロッソ州の農業経済研究所 (IMEA - Instituto Mato-grossense de Economia Agropecuária) の 9 月のデータによると、同州の 1 ヘクタールあたりの大豆、トウモロコシ、綿花の生産コストは前年比でそれぞれ 9.0%、3.0%、6.7% 上昇している¹²。

なお、ブラジルは農業資材の多くを輸出に頼っていると思われ、リアル安により生産コストが増加するという状況は、必ずしも COVID-19 による影響とは言えない。

図表- 32 肥料と農薬の輸入額と輸入量 (1 月～9 月)

	2019 年			2020 年		
	輸入額(US\$)	輸入額(R\$)	輸入量	輸入額(US\$)	輸入額(R\$)	輸入量
肥料	2,141,068	8,356,278	5,828,657	1,935,349	10,035,207	6,609,230
農薬	2,510,971	9,809,886	284,470	2,686,121	13,876,784	280,610



出典 : Comex

単位 : 千ドル、千リアル、トン

備考 : 肥料=NCM3105、農薬=NCM3808

3.3 花卉・観葉植物市場が回復

3 月半ばに COVID-19 感染拡大による自粛・経済活動制限措置がとられ、花卉店の営業停止、イベント開催禁止により、花卉業界は売上を大きく減らした。しかし、その後、営業再開、組合・生産者団体その他の業界団体のキャンペーンが功を奏して、売上が回復し

¹² <http://www.imea.com.br/imea-site/relatorios-mercado-detalhe?c=4&s=3>

植付コスト : 種子、肥料、農薬類、その他資材、機械オペレーション、人件費などを合わせた直接コストで、土地代、金融費などは含まれない。

ている。ブラジル花卉生産研究所 (Ibraflor - Instituto Brasileiro de Floricultura) によると、8月の売上は前年比で 10%増加している¹³。これは、自宅で過ごす時間が増え、主に鉢物の消費量が増えたことによるものと推測される。一方、イベント用のデコレーション需要は、切り花売上の約 30%を占めるが、切り花市場の状況は未だ改善されておらず、今後、イベント、パーティー、結婚式などの再開許可状況に左右されると考えられている。また、多くのイベントが来年に延期されており、再開が許可されれば、需要が集中することが予想され、Ibraflor では、生産者は、そのときのために準備しなければならないと注意を促している。

花卉・観葉植物市場の上半期の売上の落ち込みは、約 30%で、現在の売上の回復では、これまでの落ち込みをカバーするに至らず、最終的に 2020 年は、前年比で約 5%の成長にとどまるのではないかと Ibraflor では予想している。COVID-19 感染拡大前までは、10~12%の成長が見込まれていた。

3.4 食品価格の値上がり

IBGE の発表によると、1月から 9 月までの累計インフレ (IPCA¹⁴) は 1.34% であった。この中で、食品の値上がりは突出しており、主に低所得者にインパクトを与えていた。食品全体が 7.3% の上昇で、中でもコメは 40.69%、フェイジョンは 34.47%、大豆油は 51.3% 上昇している。これは、この 3 つの食材が、白米を油で炒めて炊き、それにフェジョン豆の塩煮をかけて食べるというブラジル人の食生活にとって重要な基礎食材となっているためである。

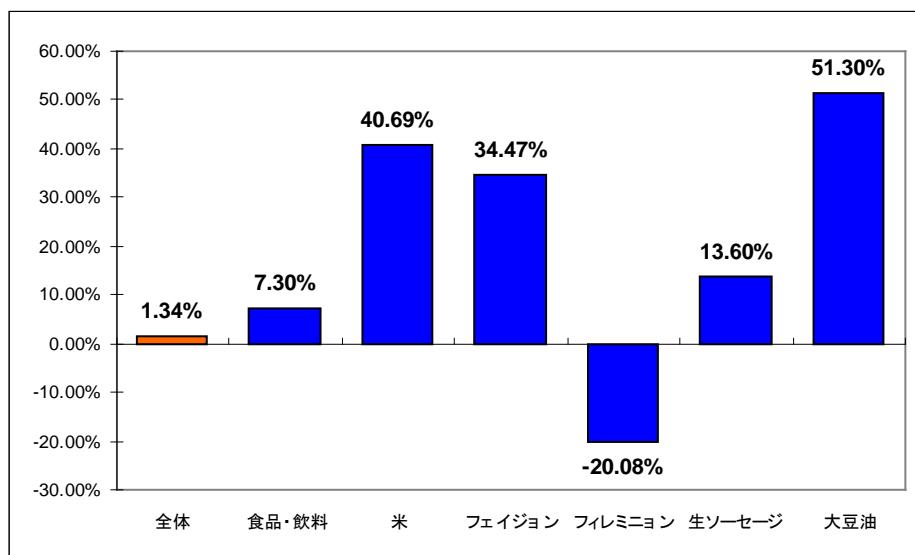
食品の値上がりは、COVID-19 によって自炊が増えたことと、給付金の支給で低所得者の食品購入が増えたことに起因する。さらに大豆油の値上がりについては、原料となる大豆価格の高騰による。図表-33 で、牛肉の高級部位であるフィレミニョンと、安価な生ソーセージ (リングイッサ) を見ると、フィレミニョンは 20.08% 値段が下がっているのに対して、生ソーセージは 13.6% 値上がりしている。レストランは徐々に再開されているが、席数の制限、外食を避ける消費者が多い等により客数は以前の状態に戻っておらず、こうした影響により、フィレミニョンの値段が下がったと推測される。

なお、コメについては、価格高騰を抑えるために、今年いっぱいは関税を免除する暫定措置を講じている。

¹³ Globo Rural, *Venda de flores cresce 10% e sinaliza retomada após colapso no começo da pandemia*, 2020/10/06
<https://revistaglororural.globo.com/Noticias/Economia/noticia/2020/10/venda-de-flores-cresce-10-e-sinaliza-retomada-apos-colapso-no-comeco-da-pandemia.html>

¹⁴ 消費者物価指数 (IPCA - Índice Nacional de Preços ao Consumidor Amplo)

図表- 33 1月から9月までの累積インフレ率 (IPCA)



出典：IBGE

3.5 生産者によるオンライン販売

3月に始まった自粛・経済活動制限措置によって、多くの地方で露店市 (Feira Livre) が閉鎖されたり、外食向けに卸している仲買人が仕入れ量を減らしたため、それらを主な販売先としている小規模生産者は困難な状況に陥った。それに対して、政府機関や公共団体は、生産者が直接消費者に販売するためのプラットフォームを構築してサポートを行った。

ミナスジェライス州では、州農務局の技術指導・普及公社 (Emater-MG - Empresa de Assistência Técnica e Extensão Rural do Estado de Minas Gerais) が州内各地の組合、生産者団体、ボランティア団体と共同で生産者によるオンライン販売のサポートを行った。その報告書¹⁵が発表されているので、データから生産者によるオンライン販売の状況を見る。

当該報告書によると、州内で 35 の生産者によるオンライン販売のグループが形成され、1501 の家族経営農家が参加、1 万 629 人の消費者に販売を行っている。

図表-34 に示したとおり、1 グループの参加人数は 50 人以内が最も多く、83%を占めており、比較的少人数のグループでの参加が多い (問①)。また、顧客の数は、約半数が 200 軒までで、小規模な販売に止まっている (問②)。

販売にあたっては、コミュニケーション・アプリの WhatsApp¹⁶がほぼ必須で、それのみを使用しているグループが半数近くあり、他のツールの併用も含めるとほぼ全てのグル

¹⁵ Emater-MG, *Experiências Exitosas em Comercialização, com o Uso de Ferramentas Digitais e Mídias Sociais, em Tempos de Pandemia*, 2020/07
www.emater.mg.gov.br/doc/Relatorios_Monitoramento/relatorio_experiencias_exitosas_comercializacao.pdf

¹⁶ 日本で普及しているラインに相当するもの。

が WhatsApp を用いていることになる。また半数は、ソーシャルメディアを利用している。販売専門のアプリケーションを用いているのは 1 グループのみで、これは費用の面も影響していると思われる（問③）。

販売している農産物は、全グループの 83%が何らの形で加工した品を扱い、一方、生鮮の野菜、フルーツのみは、17%と少ない（問④）。報告書では指摘されていないが、これは生鮮の野菜とフルーツのみでは、スーパーや露天市との差別化が難しいためと推測される。

販売先は、全グループの 88%が一般消費者を対象としている（問⑤）。理由は明らかにされていないが、小売店などへ販売するには、取扱い量、種類がまとまらないこと、WhatsApp やソーシャルメディアで直接消費者を中心に販売を働きかけているためと推測される。また、大部分（85%）のグループが相手とする顧客は、直接、自宅で商品を受け取っている（問⑥）。

大部分（82%）のグループは、事業のパートナー（支援者）として Emater-MG とタイアップしており、公的機関の支援が重要なことがわかる（問⑦）。

オンライン販売を行うまでの課題では、約 3 分の 1 のグループが「課題はない」と回答している一方、同じ割合のグループが「配達に課題がある」と回答している（問⑧）。

図表- 34 ミナスジェライス州での小規模生産者によるオンライン販売の状況

①参加生産者の数		⑤販売先	
参加数	グループ数の割合	販売先	グループ数の割合
1~50 人	83%	一般消費者	88%
50~100 人	11%	一般消費者 + 小売店	12%
②顧客の数		⑥顧客の商品の受け取り方	
対象とする顧客数	グループ数の割合	受け取り方	グループ数の割合
100 以下	23%	住宅で受け取る	85%
100~200	20%	住宅または特定の場所でピックアップ	15%
200~300	14%	⑦事業のパートナー	
300~500	8%	パートナーの種類	グループ数の割合
500~800	23%	EMATER-MG	82%
800~1000	3%	市 + EMATER-MG	9%
1000~1500	9%	市 + EMATER-MG + その他	9%
③販売のための使用ツール		⑧オンライン販売の課題	
ツールの種類	グループ数の割合	課題	グループ数の割合
WhatsApp のみ	46%	困難さはない	31%
WhatsApp + SNS	28%	配達	31%
WhatsApp + SNS + サイト	20%	キットの内容の宣伝	14%
SNS + ブログ	3%	注文ごとの数量が少ないこと	6%
WhatsApp + SNS + ブログ + サイト + 販売 APP	3%	宣伝方法と注文の管理	3%
④販売生産物		販売価格	3%
生産物	グループ数の割合	市の規制が安定しないこと	3%
蔬菜 + フルーツ + 加工品	77%	販売についてのトレーニング不足	3%
蔬菜 + フルーツ	17%	グループ内でルールが守られないこと	3%
蔬菜 + フルーツ + 加工品 + 穀物	3%	値決め	3%
蔬菜 + フルーツ + 加工品 + 穀物 + 民芸品	3%		

出典：EMETR-MG

4 政策、政府、民間企業の動き

4.1 農畜産関係イベント

COVID-19 感染拡大によって、農畜産関係の展示会、セミナーなどのイベントが、キャンセルあるいは延期となっている。

ブラジルの農業畜産業界にとって、展示会やカンファレンスなどのイベントは、資材、機械メーカーほか多数の関連業者が出演し、生産者にとって情報収集や購買の重要な機会となっている。展示会は、地域別、分野別、組合別、規模別などの特徴を持っている。大型のものも多い。図表-35 は、ブラジルの主な大型農畜産展示会の 2019 年の取引額と入場者数であるが。最大の Agrishow をはじめ、数億ドル以上の取引規模となっている。

図表- 35 ブラジルの主な農畜産関連イベントの実績（2019 年）

展示会	州	取引額	取引額(US)	入場者
Expodireto Cotrijal	リオグランデドスール州	26 億レアル	4 億 5360 万ドル	25 万 6000 人
Agrishow	サンパウロ州	29 億レアル	5 億 590 ドル	15 万人
Expointer	リオグランデドスール州	27 億レアル	4 億 7080 万ドル	42 万人
Bahia Farm Show	バイア州	19 億レアル	3 億 3130 万ドル	6 万 8000 人
Coopeval	パラナ州	22 億レアル	3 億 8360 万ドル	28 万 8000 人

出典：各展示会主催者発表及び報道

COVID-19 感染拡大防止のため、展示会、イベントはインターネット上でのオンライン・バーチャルで開催され、農畜産分野に特化したバーチャルイベントのプラットフォームも現れてきている¹⁷。

4.2 パラグアイからの陸路入国の許可

ブラジル政府は、10 月 14 日に公布された政令第 478 号によって、これまで禁止していたパラグアイからの陸路による入国を許可した。パラグアイでは、大豆生産その他の分野に関わっているブラジル人、ブラジル資本の企業があり、今後経済活動を再開してくることが考えられる。

¹⁷ Agri-REX

<https://rvtv.com.br/2020/07/31/nova-plataforma-e-lancada-para-realizacao-de-eventos-online-do-agronegocio/>